

大手企業志向増加の一方で、6割以上の学生が地元就職を希望 背景にあるのは「経済面の不安」と、将来の「子育て・介護に備えたい」 「マイナビ 2025 年卒大学生 U ターン・地元就職に関する調査」

株式会社マイナビ(本社:東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員:土屋芳明)は、2025年3月卒業予定の全国の大学生、大学院生(3,017名)を対象に、「マイナビ 2025 年卒大学生 U ターン・地元就職に関する調査」の結果を発表しました。

TOPICS

- ◆ 地元就職(Uターン含む)を希望する学生は62.3%(前年比0.3pt減)となり3年連続同水準で推移。理由は「両親や祖父母の近くで生活したいから(47.2%)」が最多【図1、2】
- ◆ 地元就職を希望する背景は、経済面・生活面での心配や、将来の子育て・介護について備えたい意識【図3】
- ◆ Iターン就職に興味がある学生は44.4%。インターンシップや旅行をきっかけに興味を持つ学生も【図4、5】

【調査概要】

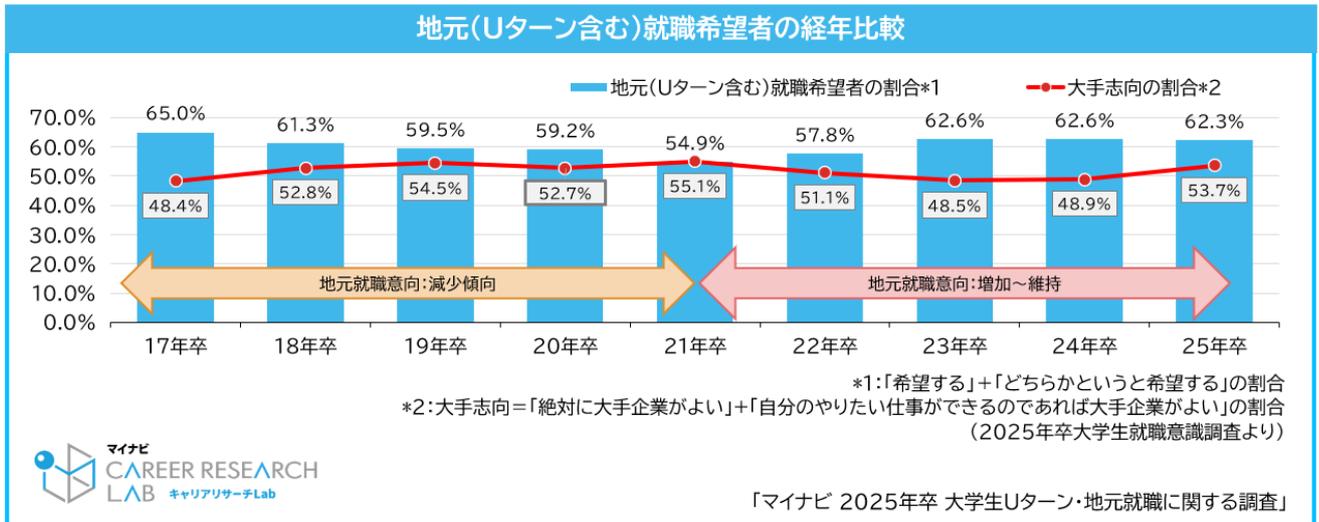
地元就職(Uターンを含む)を希望する学生は62.3%(前年比0.3pt減)となり3年連続同水準で推移
理由は「両親や祖父母の近くで生活したいから(47.2%)」が最多

25年卒の学生が地元就職(Uターンを含む)を希望する割合は、62.3%(前年比0.3pt減)だった。23年卒以降3年連続で6割を超えており、大手企業志向の傾向^{※1}と比較すると、17年卒から24年卒まで反比例の関係にある。また、地元就職を希望する理由では「両親や祖父母の近くで生活したいから(47.2%)」や、「実家から通って経済的に楽だから(37.5%)」「地元(Uターン先)での生活に慣れているから(36.5%)」が上位に挙がった。

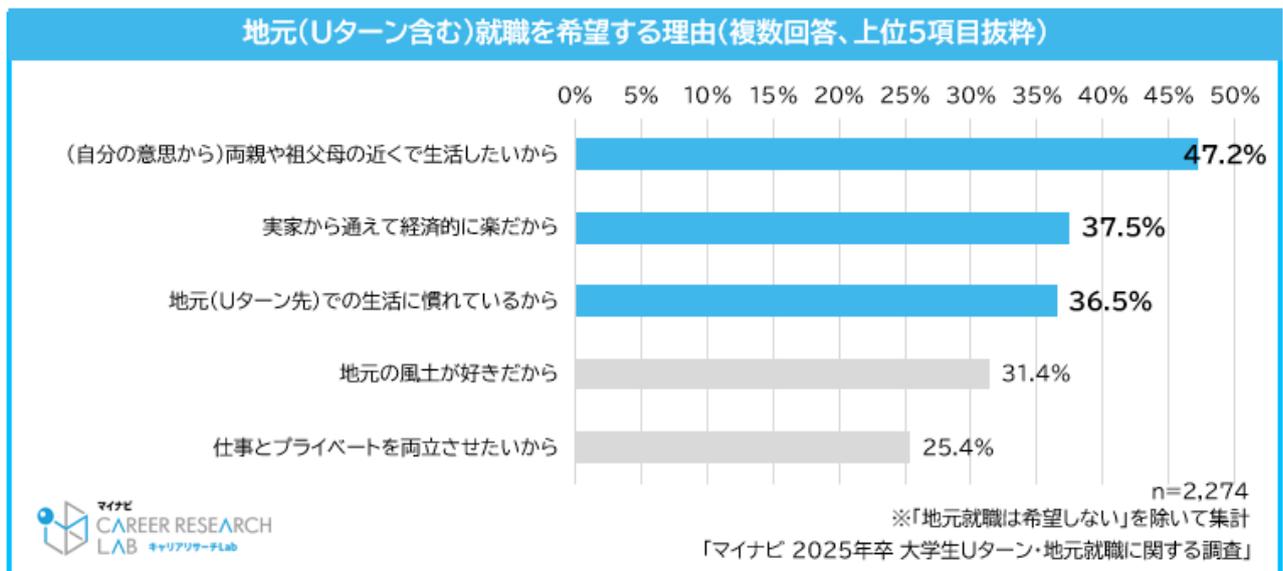
コロナ禍前は大手企業志向の高まりから、地元就職意向は減少傾向だった。しかしコロナ禍以降、就職活動の厳しさや経済状況への懸念から、地元を離れて都市部で独り立ちすることへの不安が増し、地元就職意向が高まった。一方、25年卒では大手企業志向の学生が増えているが、引き続き地元就職意向も6割を維持している。昨今就職先を選ぶ際、経済的な不安や将来のライフスタイルの変化を想定し、福利厚生などの制度面の充実を求めて大手企業志向が高まっているが、それと同時に、実家やその近くで生活することで安心したいと考える学生が一定数いることなどから、地元就職意向の割合も維持されていると推察できる。【図1、2】

※1:マイナビ「2025年卒大学生就職意識調査」

【図 1】



【図 2】

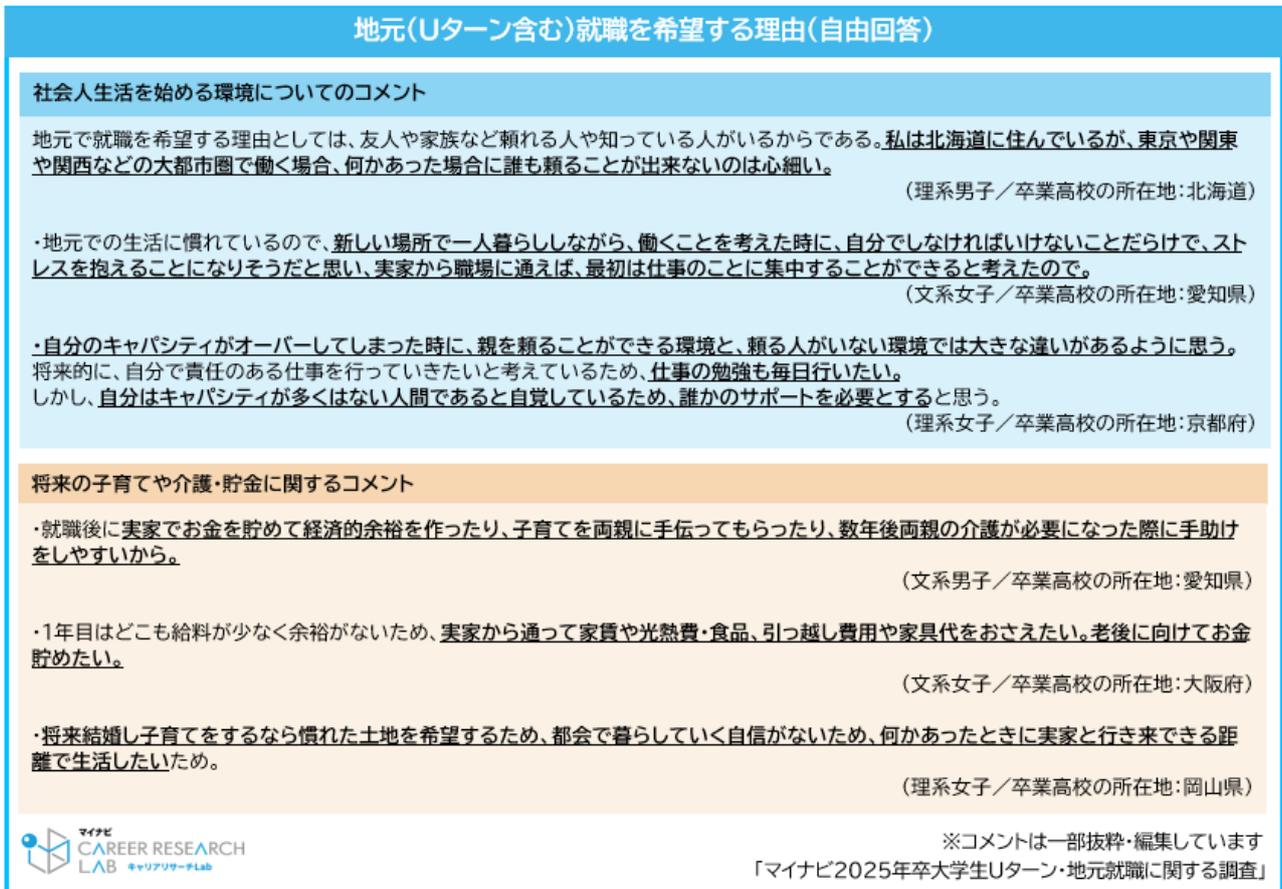


**地元就職を希望する背景は、
経済面・生活面での心配や、将来の子育て・介護について備えたい意識**

地元就職を希望する人に、その理由について自由回答で聞くと、「何かあった場合に誰も頼ることができないのは心細い」、「実家から職場に通えば最初は仕事のことに集中できそう」などの声が挙がった。新しい環境への不安から、頼れる存在が身近にいる地元や実家で暮らすことで、生活面や経済面、さらには精神面の負担を減らしつつ、仕事に集中したいという思いが読み取れた。

また、「子育てを両親に手伝ってもらったり、両親の介護が必要になった際に手助けをしやすい」「実家から通って老後に向けてお金を貯めたい」などのコメントもあり、将来のライフイベントについても想像した上で就職先を検討している学生がいることも分かった。【図 3】

【図 3】

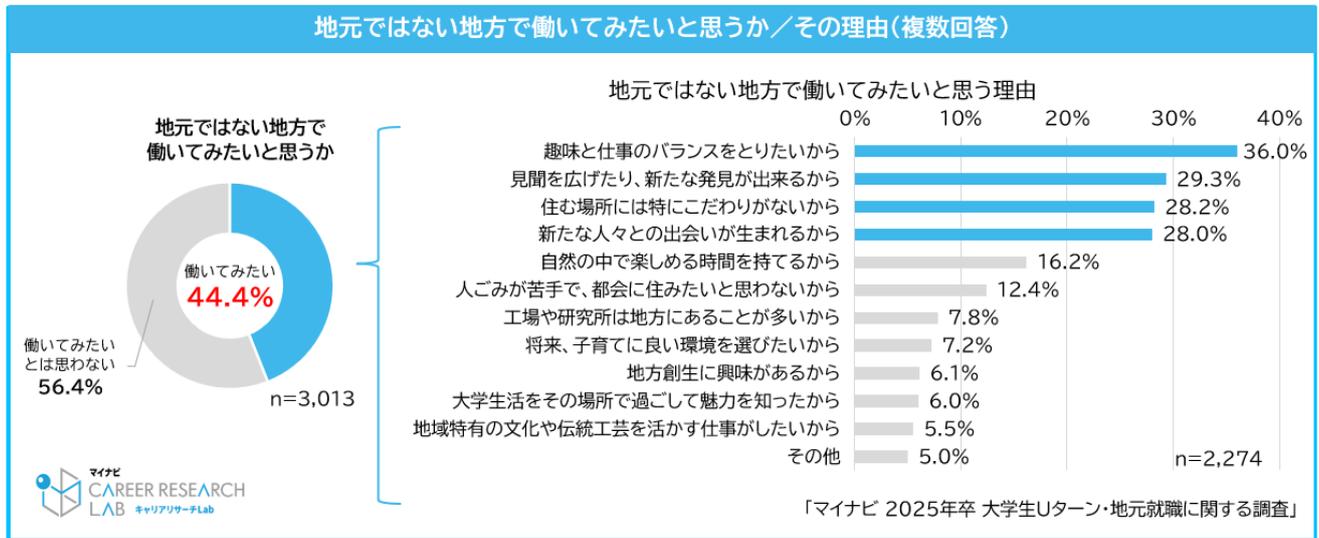


Iターン就職に興味がある学生は 44.4%。インターンシップや旅行をきっかけに興味を持つ学生も

地元以外の地方で働いてみたいと思うかについて聞いたところ「働いてみたい」と回答した学生は 44.4%だった。その理由については「趣味と仕事のバランスをとりたい」が最多で 36.0%、「見聞を広げたり、新たな発見ができるから(29.3%)」、「住む場所には特にこだわりがないから(28.2%)」「新たな人々との出会いが生まれるから(28.0%)」が続いた。

地元以外の地方で働いてみたいと思ったきっかけを聞いたところ、「インターンシップで訪れてその場所での生活や仕事に興味を持った」「(その地域に大学があり)大学近くに住んで良さを知った」「旅行で訪れて住みたいと思った」などのコメントが見られた。Iターン就職する学生を増やすために、さまざまな間口から学生に地域の魅力を体験してもらうきっかけをつくることは効果がありそうだ。【図 4、5】

【図 4】



【図 5】

地元ではない地方で働いてみたいと思ったきっかけ(自由回答)

インターンシップや就職活動をきっかけに

私は首都圏以外の地域の企業で1ヶ月間のインターンシップを経験しました。その地域の美しい自然や活気のある地域社会、そして人々の温かさに触れることで、その場所での生活や仕事に興味を持ちました。特に、地域住民との交流や地域固有の文化に触れることで、地方ならではの魅力を感じました。
(理系男子／卒業高校の所在地:大阪府)

福井県の合同説明会に行った時、意外と職場環境が良さそうな企業に多く出会えて、福井で働くという選択肢が自分の中で増えた
(文系男子／卒業高校の所在地:京都府)

大学通学のために住んだこと・趣味で訪れたことをきっかけに

大学近くに住んで、この地域の良さを知ったのと、都市の規模感がちょうどよいから。また、就職するのに魅力的な企業が多くあることを大学で開催された合同説明会で知った
(文系女子／卒業高校の所在地:鳥取県)

旅行で奈良県に行った際、直感的に「ここに住みたい！」と思ったのがきっかけ
(文系女子／卒業高校の所在地:福岡県)

趣味でその地方を訪れた時に、街の雰囲気や食べ物に良さを感じ、ここで就職するのもアリだと大いに感じたから
(文系男子／卒業高校の所在地:宮崎県)

※コメントは一部抜粋・編集しています
「マイナビ 2025年卒 大学生Uターン・地元就職に関する調査」

【調査担当者コメント】

学生調査では昨今、初任給や福利厚生への注目が高まっており、25年卒では大手企業志向も増加していますが、その一方で、地元就職意向も6割を維持する結果となりました。これは、大手企業で待遇や福利厚生による安定や安心を得たい学生がいるのと同時に、実家暮らしや両親のサポートを受けられる範囲に住むことで、金銭面や将来のライフイベントへの不安に備えたい学生もいるなど、社会人生活に安心や安定を求める気持ちは共通しながらも、それをどう実現するかイメージが学生によって異なっていると推察できます。企業は、学生それぞれの不安や、叶えたいライフプランやキャリアプランを理解し、自社がどうマッチングしているかを伝えていくことが求められそうです。

キャリアリサーチラボ 研究員 長谷川 洋介

【調査概要】「マイナビ 2025 年卒大学生 Uターン・地元就職に関する調査」

○調査期間／2024年3月21日(木)～4月5日(金)

○調査方法／3月21日時点のマイナビ 2025 会員に WEBDM で配信

○調査対象／2025年3月卒業見込みの全国大学生、大学院生(調査開始時点の大学3年生、大学院1年生)

○調査機関／自社調べ

○有効回答数／3,017名(文系男子:573名、文系女子:1,270名、理系男子:596名、理系女子:578名)

※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

※調査結果の詳細はこちら(https://career-research.mynavi.jp/reserch/20240509_75888/)からご確認いただけます。

「働く」の明日を考える マイナビキャリアリサーチ Lab



『マイナビキャリアリサーチ Lab(ラボ)』は、雇用や労働に関連する様々な調査データやレポートを通じて、雇用の在り方や個人のキャリアを考える上で役立つ情報を提供するサイトです。

蓄積してきた調査結果、新たに分析した雇用関連のレポート・コラム、市場データといった情報の提供を行い、組織と個人をつなぎ、社会全体でキャリアの在り方を考える一助を担います。

【当社に関するお問い合わせ先】 株式会社マイナビ 社長室 広報部 松田 Email:koho@mynavi.jp